



北海道ファミリーハウス

— NPO法人 —

北海道ファミリーハウス通信

2015年12月7日発行/No.16

発行:NPO法人北海道ファミリーハウス
責任者:理事・事務局長 大西 可奈
060-0807札幌市中央区北7条西6丁目
TEL(011)716-4161 FAX(011)716-4162

<http://www3.snowman.ne.jp/~h-family/>

第16回 JHHHネットワーク会議開く

十月十八日 北海道大学 情報教育館



開会挨拶をする江口理事長（東京）

十月十八日、北海道大学情報教育館において第16回 JHHH (Japan Hospitality HouseNetwork) を開催しました。

この会議は、全国各地でファミリーハウス運動に取り組んでいる仲間が、ファミリーハウスを取り巻く環境の変化や活動の実態

について情報交換などを行う場として年に一度開かれるもので、初めて北海道で開催しました。会場には、全国から六十名余りの仲間が集合し、午前中は、

○北海道の活動状況報告

○講演「がんに挑む・がんに学ぶ」

○ファミリーハウスに関する全国の動き
・・・などについて耳を傾けました。

また午後からは、四つの分科会で議論を深め終了後には、情報の共有化として議論された内容が分科会ごとに報告され、全体での質疑を行い十六時三十分会議を終了しました。



NPO法人北海道ファミリーハウス
南谷晴之理事長から、開催地として
歓迎のご挨拶をいたしました

この度の会議開催にあたりましては、後援として「公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」様、「北海道大学病院」様、協賛として「アメリカンファミリー生命保険会社」様のご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

講演

公益財団法人

札幌がんセミナー

理事長 小林 博氏

「がんに挑む・がんに学ぶ」



札幌がんセミナー理事長 小林 博氏

講演で小林先生は、「若い頃アメリカでファミリーハウスの存在を知り、がんに対する治療も、患者さんに対するケアも行き届いていることを感じた経験があります。私は永年がんの研究に携わり、今という遺伝子治療の基礎研究が主なものでした。北海道大学を辞めてからも、財団の活動として、がんに関するシンポジウムや国際会議を通じて健康教育や市民に対する啓発活動に取り組んでいます。また、財団ではスリランカに出向き学



北海道の活動報告をする
神戸智子理事（北海道FH）

校の現場で子どもたちに健康教育を行っています。当時スリランカは、タバコによる肺がんや口腔がんが多く生活習慣病的なところもありました。そこで大人を中心に、タバコが健康に与える影響について訴えましたが、なかなか改善されない状況が続きました。そこで、子どもたちに健康教育を行うことで、子どもから大人へ『タバコは健康に悪い』・・・ということが伝わり改善すると考え、映像を見せたりポスターを作るなど取り組みを行った結果、明らかに喫煙率が減少することが確認されました。この取り組みは、北海道をはじめ熊本・岡山・長野・宮城などでも行われています。」

などとする講演をいただきました。

分科会で活発に意見交換を行う

今回の会議では四つの分科会を設け、テーマに沿って日頃の活動やこれからの取組みなどについて活発に意見交換しました。その後、情報共有として全体会議で議論の経過や意見について報告がなされました。

○分科会A「ハウスゆいまー」の活用

○分科会B「病院・関連団体との連携

○分科会C「わが家」らしい雰囲気づくり

○分科会D「ボランティア



分科会の様子



分科会の様子

全国各地からの
ご参加ありがとうございました。



会議出席者で記念撮影



全体会議での意見交換